

平成 27 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470600956	事業の開始年月日	平成18年2月1日
		指定年月日	平成18年2月1日
法人名	有限会社 イルミネイター		
事業所名	ホームマリア		
所在地	(〒240-0052) 横浜市保土ヶ谷区横浜市保土ヶ谷区西谷町943		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成27年12月31日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

建物は立派な日本家屋で、住空間がとても広い。 利用者個人に応じたケアに努めています。 また日々の食事は、三食とも手作りしており、新鮮かつ安心なものです。
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年1月19日	評価機関 評価決定日	平成28年4月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】 この事業所は相鉄線西谷駅から徒歩3分ほどの国道沿いにある。周辺にはファミリーレストランや大型スーパーマーケット、眼科や整形外科などの病院もある。建物は当初「郷土資料館」として建てられた、3階建ての城のような外観である。その後、1階の眼科医院の所有となり、2階3階を当法人が借り受け、グループホームとして平成18年に開所した。白壁に囲まれた砂利の道を進み階段を上がると広い玄関に立つ。建物内部は天井が高く、現在は見ることが少なくなった床の間や欄間、襖で仕切られた広々とした部屋、そして日当たりの良い長い廊下などがある。内部1階にはリビングと浴室を中心に5部屋、2階に4部屋と広いベランダがある。和風建築特有の段差を解消するため、随所に手すりや踏み台を設置している。利用者にとっては懐かしさを感じられる場所となっている。有限会社イルミネイター代表は、キリスト教の牧師であり、理念冒頭は「心に愛を忘れない」から始まる。昨年、事業所に長く勤めていた管理者が退職し、今まで管理者を支えてきた職員が引き継いでいる。新管理者は職員との協力体制を構築していく10年目にしたいと考えている。 【1ユニットならではの家庭的な対応】 毎日職員が三食の献立を考え、利用者と一緒に近所の大型スーパーマーケットに買い物に行き、旬の食材で食事を提供している。また起床時間も利用者のペースに合わせている。入浴は3日毎に行い、トイレでの排泄介助を励行している。利用者の体調管理とゆったりとした生活は13名の職員の協力によるものである。 【重度化・看取りに対する姿勢】 利用者・家族の希望により看取りを行った事例が3件ある。また現在も2名の方が住み慣れた場所で最期まで安心して過ごしたいと希望している。現在、既に協力医療機関の医師や看護師との連携が構築されており、今後も引き続き職員研修を充実させて、それらの要望に応えていきたいと考えている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ホームマリア
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアを心掛けています。が理念の共有という部分は弱いように感じられます。	理念は「心に愛を忘れない。お互いに尊重しあう。介護に心を込める。（以下聖書の一文が続く）」である。前管理者を中心に作成されたものであり、職員と一緒に再度理解を深め、生活に活かしていきたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一度の食事会や焼き芋会など、町内の催しには、進んで参加しています。付き添いの職員も片よらないようにし、顔を覚えてもらえるようにしています。外出時等にも町内の方から、マリアさんと気さくに声をかけて下さいます。	町内会に加入し、回覧板から地域の行事を知る。焼き芋大会や清掃活動、防災訓練などに利用者と一緒に参加している。毎月地区センターで行われている食事会（すみれ会）にも出席している。パン粘土や三味線のボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで地域、利用者、家族を交えてプリザートフラワー作りを行うなどして交流の場を設けている。地域の方達は同じ時間を共有することで認知症でも同じ事が出来るんだ、という気付きを得られたり、イメージが変わった等の感想を頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、家族の方達が参加しやすいように心がけており、その結果自由なご意見を頂けるようになりました。また頂いたご意見は代表者にも随時報告し、サービス向上に努めています。	10月に開催し、家族、町内会長、民生委員、包括支援センター職員が参加している。家族から砂利道の舗装を要望する意見や、町内会長からは避難訓練への参加の要請を受けている。今年度は実施回数を増やしていくつもりである。	定期的な開催を実施し、運営推進会議が事業所を支える力となることを期待します。

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な事は、包み隠さずにその都度関係機関に報告、連絡し指示を仰いでいます。	保土ヶ谷区高齢・障害支援課に要介護認定更新を代行申請している。生活保護を受給している方がいるため、生活支援課の担当者が来訪することもある。グループホーム連絡会に加入し、研修会に参加している。	
---	---	--	---------------------------------------	---	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市役所指導のもと、利用者様の交通事故防止の観点からと防犯上の理由から施錠しています。身体拘束は、一切ありません。	「身体拘束をしないケア」を行っている。グループホーム連絡会主催の研修会に職員が参加し、職員間で共有する。玄関で転倒事故があったため柵で予防し、防犯上施錠をしている。外出したい人の拘束にならないよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての講習等にも参加しており、講習後には全職員で学びの時間を作っています。また地域ボラさん等にも来て頂き開かれた介護をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在二名の利用者様に成年後見人さんがついています。ホーム行事等へのお誘いをし、より関係性を深めていきたい。		

9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は、契約書、重要事項説明書をもとに納得のゆくまで説明し、納得されたことの署名欄を設けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との連絡はまめに行い、希望や要望を言いやすい関係性を築くよう心掛けています。市役所に寄せられた苦情もありません。	家族の来訪時に意見や要望を聞いている。利用者の高齢化により、車いすでの移動が楽になるよう改善を希望する意見が出されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	27年2月、代表者発案による食事会が開かれ、意見交換も出来楽しい時間がもてました。今後も定期的に開催していく意向です。	管理者は職員の中で一番年下ではあるが、職員と話しやすい関係を築いている。また経験豊富な職員に支えられている。今年度は9月に職員ミーティングを行った。今後は定期的にミーティングを行い、法人代表にも参加を呼びかけ意見交換をしていきたいと考えている。	法人代表と職員と一緒に話し合う機会を設け、家族や職員の意見が反映されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	サービス残業は一切無く、シフト作成にも職員本人の希望にそって、休日、夜勤回数など可能な限り負担のないようにしています。		

13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習の参加を随時促しています。また講師の方を招いてホーム内勉強会も実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	26年11月に他グループホームとの交換研修を行い、職員よりとても勉強になったと感想がありました。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昨年入所のNさんは、永年の独居生活と難聴の為、コミュニケーションが図りづらい方でしたが、筆談を用いて根気強く見守り対応したところ、現在は大変明るくなり、落ち着いて過ごされています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	3月入所のTさんは、区役所からの紹介の身寄りのない生活保護受給者でした。他者を信用出来ず、通帳、現金を片時も離さない状態でした。が本人の意思を大切に焦らず対応してきた所、私物への執着も和らぎ、此处に来て良かったと感謝の言葉を職員に下します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、利用者様が安心して過ごせるように努め、ホーム看護師、協力医と相談し必要に応じて、整形外科、耳鼻科、眼科への受診も定期的に行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの利用者様の特性に合わせ、食材の買い物や洗濯物の片づけ等の簡単な家事を一緒にしています。		

19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時に、ご家族から利用者以外のことを相談されることもあります。また外出時の車の手配や役所の手続きの代行など、家族の負担が軽くなるように努めています。		
----	--	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者Sさんは、以前は毎週日曜に教会へ行かれてましたが、体調的なことから現在はできなくなりましたが、教会の方達が面会に来て下さり、ホーム内でお祈りや賛美歌など歌って楽しい時間を過ごされています。	編み物を趣味としている利用者と一緒に馴染みの店に材料を買いに行く。利用者に送られてきた物に対してお礼の電話や礼状書きを一緒に行っている。クリスチャンの利用者に教会の方の訪問があり継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握しお互いの相性等を考慮して食堂の食席を決めています。トラブルもなく一つの空間を共有出来ています。また時期をみて席替えをし、利用者の関係性が偏ることのなうように心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで看取りをさせて頂いた利用者様のご家族から、今でもメールで時節の挨拶などをいただきます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から職員は、利用者本人が思いを口にしやすいような関係性作りに努め、個々の要望を取り入れています。例えば音楽鑑賞が好きな方には家族の了解の上、個別に対応しています。	利用者一人ひとりに向き合い、思いを聴くよう努めている。難聴の方には筆談で確認し、盲目の方には丁寧な声掛けを行っている。また、個々の特性に合わせた対応を行い希望に応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者と一対一の時間を作り、写真や手紙等から思い出話の時間を大切にし、得た生活歴等の情報は共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室でゆっくりしたい方には、孤立しないよう気を付けながら、本人の気持ちを尊重しています。又太り気味の方には、ご飯の量を調節したり、買い物、階段の上り降りなど個別に対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアミーティングを行い情報の共有、相談を随時行っています。	朝夕の申し送り時にケアの確認を行い、必要事項は業務日誌に記載し共有している。ケアプランは、計画作成担当者が立案し、職員は確認をしている。気が付いた事は伝え、モニタリングとして活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、その記録や日々の気づきを共有しています。また随時ケア介護をもうけ体系的なケアに繋がるように努めています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様希望の外出の際のタクシーの手配や役所への提出物の記入の代行等、御家族様の負担の軽減になるように心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部の方との交流を計る事が出来る利用者様には、地域での食事会、避難訓練等に参加してもらっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回医師の訪問診療があります。家族の意向からの入居前かかりつけ医とも必要に応じた連絡をとることもあります。	協力医療機関の内科医が月2回訪問している。眼科・整形外科などの近くの医院への受診は職員が付き添い支援している。毎週訪問歯科により、口腔ケアと歯科診療が行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師が勤務しております。管理者、介護職員と連携がとれていて、その都度必要に応じた受診等受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折が疑われた転倒事故にて救急搬送もありましたが、幸い入院もなく過ごせています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が落ち着いている時から、家族には報告、連絡、相談をまめにとり、予測されるであろう状態についても話あっています。	協力内科医と訪問看護師の支援により、3名の方の看取りを行った。現在も2名の方が最期まで過ごしたいと希望している。新しい職員も入っているため、研修を行っていく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルをつくってあります。応急処置の仕方など講師を招いての職場で勉強会もおこなっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練等に参加しています。また常日頃から地域の方達との繋がりを大切にしています。	防災訓練は消防署立ち合いのもと実施しているが、夜間想定訓練は行っていない。11月に地域の防災訓練に参加している。備蓄は3日分の水と食料、ガスコンロなどの備品の準備がある。「ホームマリアの緊急事態時のマニュアル」などを確認した。	近所に住んでいる職員の応援も得られるようですが、職員が1人になる夜間想定訓練はより多くの方の協力が必要だと思います。早急な対応を期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ざっくばらんな会話を好む方、丁寧な言葉使いを好む方と様々ですが、個々に合わせた対応をしています。根底に敬いの気持ちを常に忘れずに接しています。又難聴の方には筆談で対応しています。	利用者に対しその場に応じた言葉遣いをするように心がけている。また、利用者同士の関係に配慮しトラブルを回避するように努めている。個人情報に関する書類は鍵のかかる書庫で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクへの参加拒否等の際には、なぜ？どうして？といった本人の思いや気持ちに耳を傾け、職員の思いで強要せずに本人の意思を尊重します。又その際のやり取りはそのまま記録にのこします。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	夜勤者は、起床時間が定まらない利用者様を無理に起こしたりせず、朝食時間をずらして対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を選んで頂いています。衣服の洗濯を嫌がる利用者様には、本人に気づかれないように交換しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物同行時に何を食べたいかを尋ねてメニューに取り入れたり、食材選びをしたりしています。簡単な食材の下準備などを手伝って頂いています。	職員は三食の献立を決め、利用者と一緒に近所の商店で買い物をしている。花見の帰りや2か月に1度、和食や寿司などを外食している。手作りのおやつも時々楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をみています。お茶嫌いな方には、甘味を足したり、時にはフルーツやゼリー等も利用します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯嫌いな利用者様に毎日数分でも入れ歯の装着を促し、行っています。衛生士の指導のもと個々に合わせた歯ブラシを使用し、口腔ケアシートも利用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者Tさんには、夜間帯トイレ誘導の時間を統一し行うことで失禁もなく、ご本人も安心して入眠できています。	トイレは各階に1ヵ所である。要介護5の方を含め、全員がトイレで排泄できるよう支援をしている。布の下着を着用している方も2名いる。食事量、水分量など体調管理を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘予防の上でも野菜を多く取り入れたメニューを考え、毎日新鮮な食材を購入し、食事を手作りしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の拒否があった際は、決して無理強いせず、時間をずらしたり翌日に変更したりと臨機応変に対応しています。又好みが入浴剤を使用したり、入浴時間、温度等に配慮しています。	入浴は3日毎に、1日3名入浴を提供している。要介護5の方も職員二人対応で行っている。天井は高く大きめの家庭風呂であるため、冬場は脱衣所と浴室の気温に注意している。状態によっては、ご家族と相談し、訪問入浴を利用したこともある。季節のゆず湯や菖蒲湯を提供している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室での独り寝（昼寝）が出来ない利用者様に無理に自室へ誘導したりせず、食堂自席で職員とともに穏やかに過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧があり、主治医の指示を職員全員に周知し、同じ見解をもてるようにしています。 下剤使用の利用者様には、排便状況に合わせて、調整しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の性格を見極め、家事を手伝って頂いたり、好みに合ったレクを取り入れています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食材の買い物の際には、声掛けを行い、同行しています。外食、音楽鑑賞等利用者様の好みに合わせ、本人の行きたい所へ行けるように支援しています。	毎日の食材の購入や趣味の物の買い物と一緒に出掛けている。正月に介護タクシーを利用して自宅に外出した利用者もいる。2階に見晴らしの良い広いベランダがあり、今後外気浴を行う場所にしていくことを考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い帳を作り、好みのおやつと一緒に買い物へ行ったりしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様本人の要望があった際はもちろん、電話等の取次を行っています。また年賀状等も利用者様に代わってその想いを代筆させて頂いてます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時節に合わせた飾り付けを心掛けています。 職員も進んで掃除や片づけを行っており、清潔を保持しています。	玄関は広く、エレベーターが設置されている。天井が高い和風建築は古民家風でリビング兼食堂は落ち着いた空間である。重厚な建物であるため外の騒音も入らない。利用者の作成した作品が多数飾られており、掃除も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たい方、音楽を楽しみたい方各々の気持ちを察し、大切にしています。又、利用者様の気の合う方同士を隣席にする等配慮しています。 独りになりたい方には、無理強いせず、自室で過ごす事も認めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にご利用者様本人の物を持ち込んで使用して頂いてます。今後のお体の状態も見据えて、より適した物を選びます。 枕が合わずに肩の痛みを訴えておられましたT様に個別に新しい枕を購入し、大変喜んで頂きました。	居室は洋室が2部屋と襖で仕切られ、床の間や障子のある和室が7部屋ある。家族の写真、ぬいぐるみ、パン粘土の作品、テレビやダンスなど個性豊かな居室となっている。居室入口の段差には、手すりや踏み台を設置し、冷暖房設備により温度管理をしている。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の構造はそれぞれ違い、ご利用者様のお体、認知度に適したお部屋を選んでいます。		
----	--	--	---	--	--

目標達成計画

事業所名 ホームエリア

作成日 平成28 4月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		昨年度の運営推進会議開催が1回のみにとどまっていた。	年6回の運営推進会議を開催する	年度の奇数月に(5.7.9.11.1.3)開催月に決める。	H28年4月 5 H29年3月
2		H27年度、避難、救出等の訓練が行われていた。	年2回以上の避難訓練の実施。	避難訓練実施月を6月、12月と決め、地域の方達にも参加して頂けるようにする	H28年4月 5 H29年3月
3		施設建物内の段差解消などの改善の要望がご利用者様、家族から届く。	建物内の修繕等により、ご利用者様や職員にとって、よりよい環境の提供。	ミーティング、運営推進会議などに代表者にも参加してもらい、職員、ご利用者家族の意見を直接聞いてもらえ、機会をふやしていく。	1年～
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。